

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】特開 2002-266859 (P2002-266859A)

【公開日】平成 14 年 9 月 18 日 (2002.9.18)

【出願番号】特願 2002-21248 (P2002-21248)

【国際特許分類第 7 版】

F 1 6 C 29/04

F 1 6 C 23/08

F 1 6 C 29/12

【F I】

F 1 6 C 29/04

F 1 6 C 23/08

F 1 6 C 29/12

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 2 月 3 日 (2005.2.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

【背景技術】

リニアローラベアリング組立体の製造公差および／またはベアリングレース（軸受軌道）をバックアップする固定面に対する所望の関係は、特定の用途に要求される所望の予荷重またはクリアランス条件を達成すべく、組立て後に調節できることが必要である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

ベアリング組立体の組立て後に調節を行なうための許容された方法は、ベアリングレース上に当接するか、ベアリングレースを支持するバックアップ面上に当接する調節ねじを有している。この方法は、ベアリングレースの全長に沿って荷重（またはクリアランス）が均一になるようにする厳格な注意を要求とする。また、ベアリングレースまたはバックアップ面は、調節ねじの接触位置間の不均衡を防止するのに十分な剛性をもつかなりの厚さにする必要がある。この方法は、完成品の全体的外形からベアリングレースまたはバックアップ面に十分な厚さを確保できない用例または調節ねじへのアクセス可能性が不十分である用例には使用できない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

このような点接触では十分な荷重支持能力が得られない場合には、図 3 に示すように、側方部材 48、50 に、バックアップ部材 36 に隣接する凸状面 52 と、全体として平ら

なレースウェイ面 5 4 とを設けて、大きな割合のローラ長さ部分がレースに接触できるようにし、同時に、上記自動調心機能を維持するように構成できる。或いは、図 4 に示すように、側方部材 5 6、5 8 に、バックアップ部材 3 6 に隣接する全体として平らな面 6 0 と、全体として平らなレースウェイ面 6 2 とを設けて、自動調心機能をもたないが更に荷重支持能力を高めた構成にすることもできる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本発明は、3つのベアリング構造を備え、同軸状に配置された用途に限定されるものではなく、或いは、一つの組立体について本発明の単一の実施形態を備えた用途に限定されるものでもない。本発明は、2つまたは4つ以上のリニアローラベアリングを用いた組立体にも適用できる。また、本発明のリニアローラベアリングは、各リニアベアリング位置において、組立体の性能低下をもたらすおそれがある、レースバックアップ面の角度的不整合を補償するのに使用できる。また、ツーピースレースの側方部材に同じ複合運動又は同様な複合運動を行なわせる他の構造の調節ロッド 4 0 を考えることもできる。